

[成果情報名] ビワ園におけるオオタバコガの発生活長と有効薬剤

[要約] ビワの蕾～幼果の時期とオオタバコガ成虫の発生が多い時期は重なる。10月以降、成虫がビワに産卵し、その幼虫が蕾～幼果を食害する。この幼虫に対してピフェントリン水和剤の殺虫効果は高く、被害を抑制できる。

[キーワード] オオタバコガ、有効薬剤

[担当] 長崎果樹試・病害虫科

[連絡先] 電話 0957-55-8740、電子メール s26700@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 果樹

[分類] 指導

-----  
[背景・ねらい]

オオタバコガ幼虫はビワの蕾、花、幼果を食害する。時に多発生し、大きな被害を与える。しかし、ビワにおけるオオタバコガの生態は解明されておらず、防除法も確立されていない。そこでビワ園におけるオオタバコガの発生活長を解明するとともに有効薬剤を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. ビワ園のフェロモントラップによるオオタバコガ成虫の誘殺数は10月から増加し、11月に大きな誘殺ピークがある(図1)。
2. オオタバコガ幼虫のビワの蕾、花、幼果への寄生は11月中旬～下旬にみられる(図2)。この幼虫は中齢期に達していたことから10月以降に増加した成虫によって産卵されたものと推察される。
3. 2004年も2005年とほぼ同じ時期の11月下旬から幼虫の寄生がみられ、12月、2005年1月、2月においても幼虫の食害がみられた(データ略)。このことからハウスビワ園内では数世代を経過していることが推察される。
4. 以上のことから、ビワ園においてオオタバコガ成虫の増加する時期とビワの蕾～幼果の時期は同じ時期であり、10月以降に発生の増加した成虫がビワに産卵し、その幼虫が蕾～幼果を食害する。ハウスビワ園内では、侵入後に数回の発生を繰り返していると推察される。
5. ピフェントリン水和剤(商品名 テルスター水和剤)1000倍の散布によるオオタバコガ幼虫の死虫率は高く、食害果房もみられない(表1)。

[成果の活用面・留意点]

1. 薬剤の防除効果試験は、2～3齢幼虫を対象に実施した結果である。
2. ピフェントリン水和剤は、平成18年2月28日現在、ビワのオオタバコガに1000～2000倍で農薬登録がある。他にビワのオオタバコガに農薬登録のある薬剤はない。

[具体的データ]

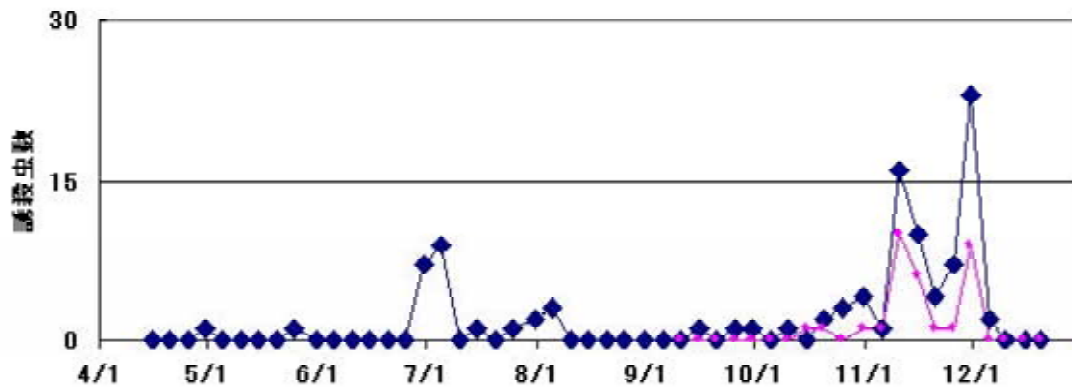


図1 オオタバコガ誘殺虫数の推移(2005)

◆ 露地    — ハウス

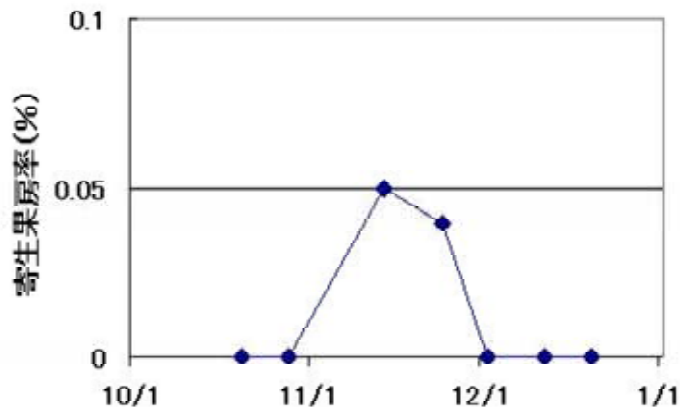


図2 ビワへのオオタバコガ幼虫の寄生(2005)



図3 オオタバコガ幼虫

表1 ビワのオオタバコガに対する防除効果

供試薬剤	希釈 倍数	散布3日後		薬害
		死虫率 (%)	食害果房率 (%)	
ピフェントリン水和剤	1000倍	93	0	-
無散布		21	100	

注1) 2~3齢幼虫接種による試験、注2) 死虫数には苦悶虫を含む。

[その他]

研究課題名：果樹ウイルス抵抗性健全の育成と特殊病害虫調査

予算区分：県単

研究期間：2005年度

研究担当者：早田栄一郎